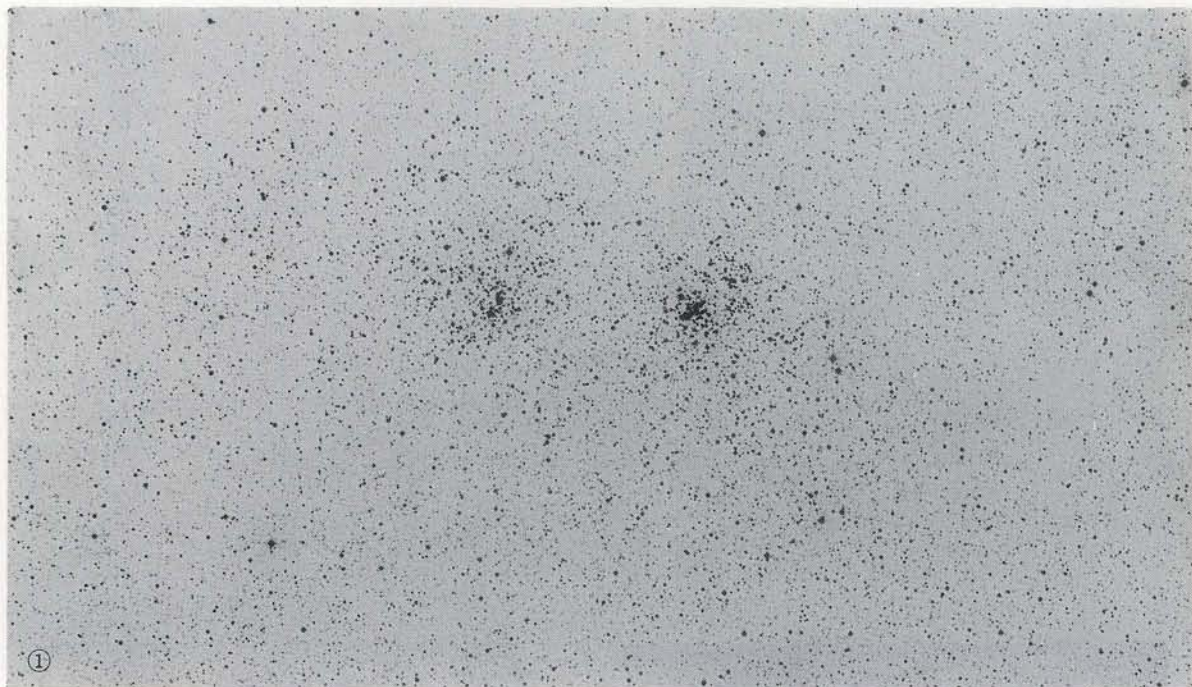


# 散開星団から

散開星団には年令にバラエティがあって生まれたばかりの場合には、沢山の星間物質の中にあるので、散光星雲をともっている。東京天文台木曾観測所の試験観測中に撮影された星団の写真を見ていただきたい。カッコの

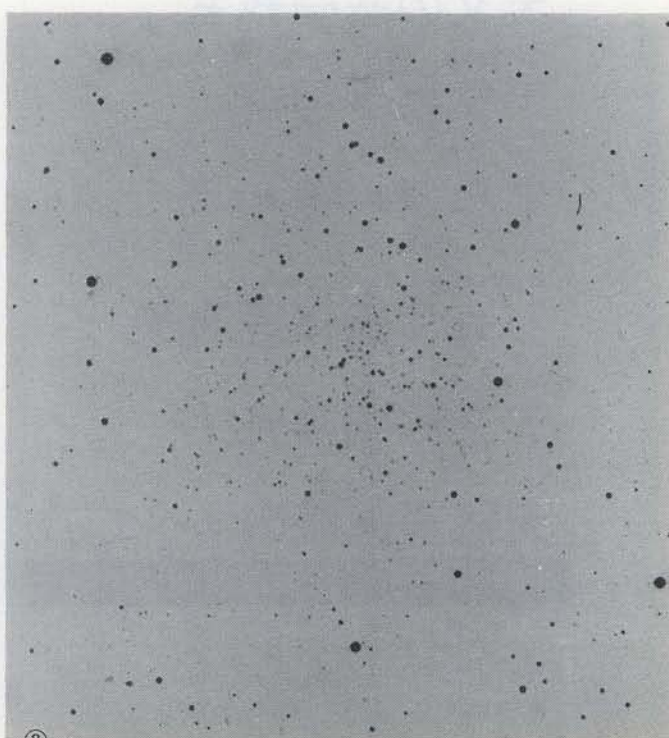
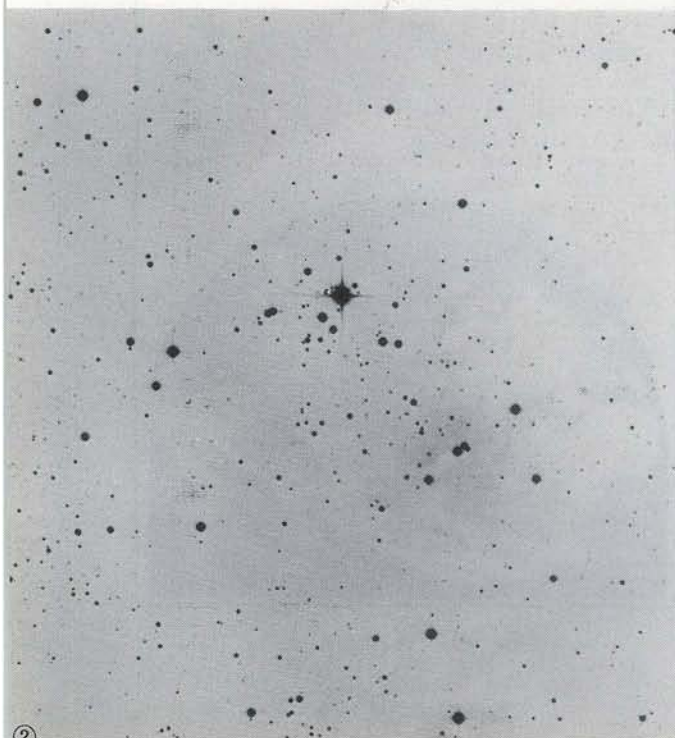
中には、原板の撮影順番号, Kodak の乾板の種類+Schott の色ガラスフィルター, 露出時間, 写真原板からの引伸し倍率を記してある。なお北が上, 東が左である。



① h,  $\lambda$  Per (K 574; IIaO+GG 385, 30 min, 1.1 倍)  
ペルセウス座にある二重星団で西の h と東の  $\lambda$  が並んでいる。散開星団としては、星の数が多くよく密集している。距離は 2250 pc.

② NGC 2264 (K 583; 103aE+RG 645, 60 min, 3.2 倍)  
中心付近の明るい星は S Mon である。一角獣座の天の川の中にあって、ばら星雲とも近い。

③ NGC 188 (K 146; IIIaJ+GG 455, 44 min, 3.3 倍)  
赤緯  $+85^\circ$  にある古い散開星団。距離 1400 pc.



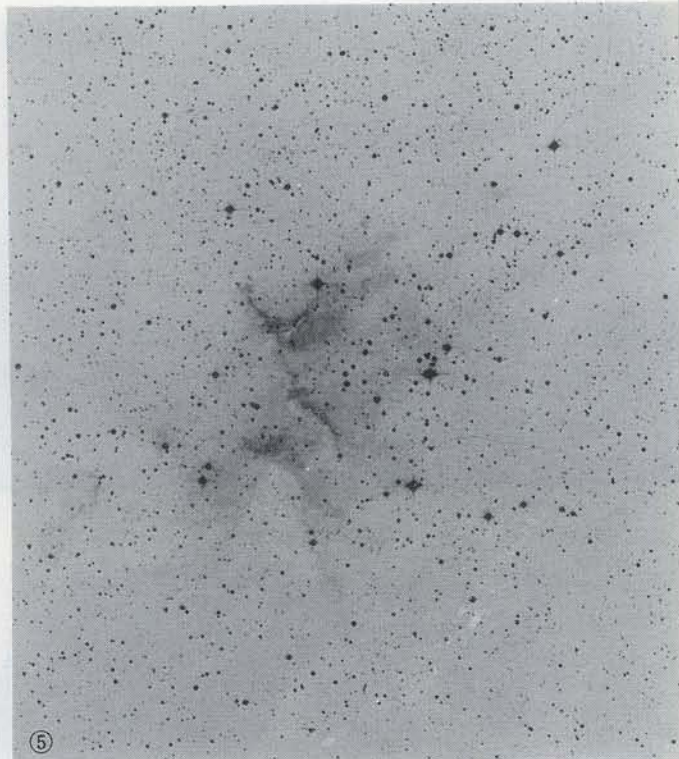
# 球状星団まで

(本文 187 頁石田蕙一氏記事参照)



④ IC 1795 (K112; 103 aF+RG 610, 30 min, 3.3 倍)  
散光星雲 IC 1795 の中には、7 等級以上もの空間吸収を受けた O 型星がうずもれていることが知られている。散開星団が生れるところであろう。

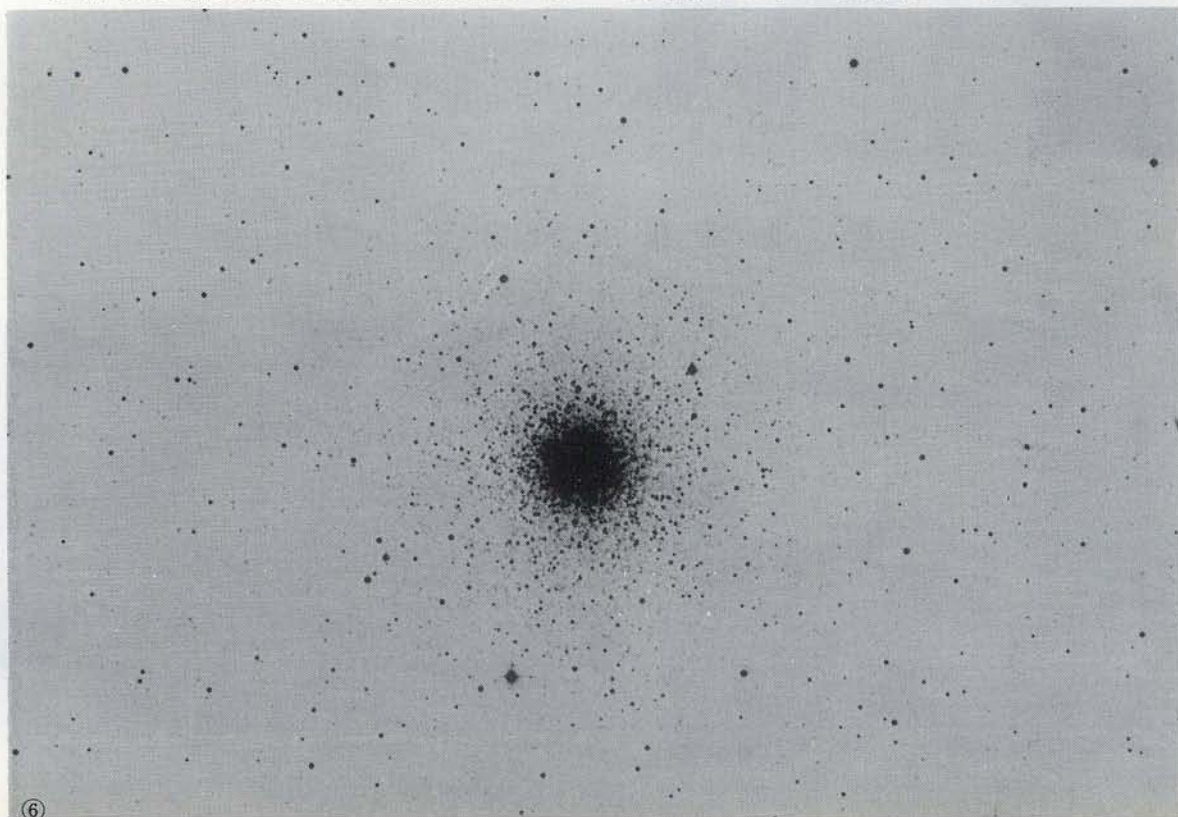
⑤ IC 1805 (K 112; 103 aF+RG 610, 30 min, 3.3 倍)  
8 等から 10 等にわたる 11 個の O 型星を含む若い大



きな散開星団で、距離は 1.9 kpc. カシオペア座の天の川の中にあつて IC 1795 がすぐ傍にある。

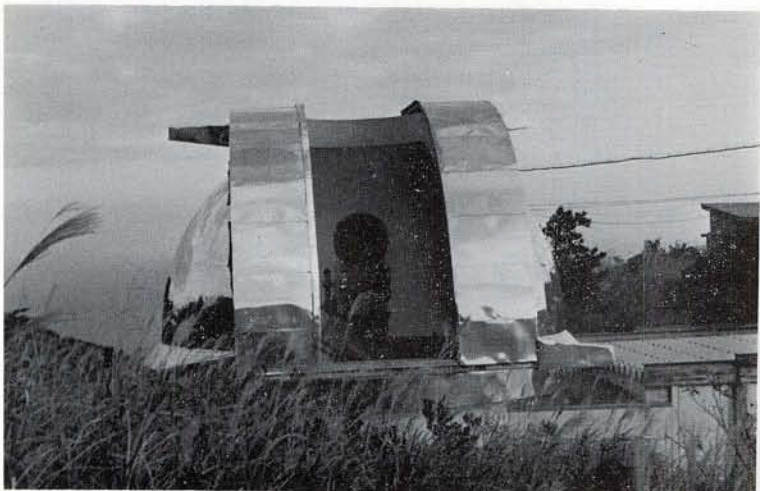
⑥ 球状星団 M 3 (K 306; 103 aD+GG 495, 30 min, 2.7 倍)

りょうけん座にある球状星団。RR Lyr 型の変光星が 190 個もみつまっている。距離は 13 kpc.



# 星食観測用60cm反射望遠鏡

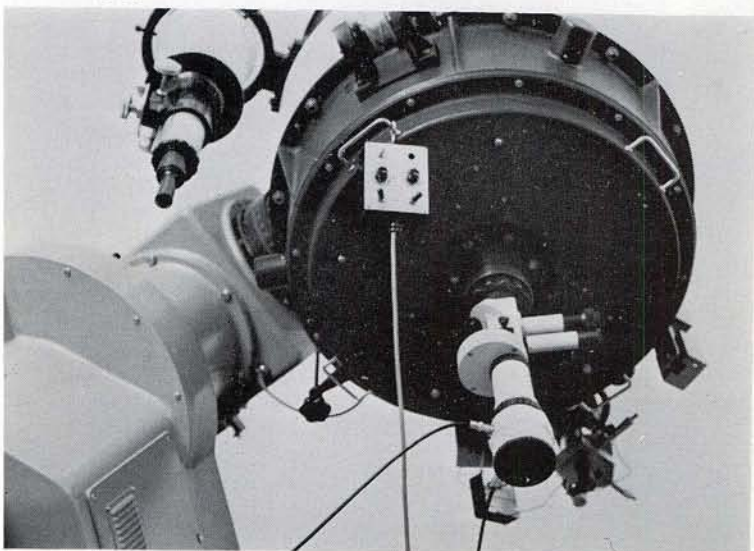
(本文 197 頁記事参照)



▲ 6m ドーム: 晴天の日には伊豆大島, さらに遠く房総の山々まで見える.



▲ パルスモーターの電源部: 上の箱はカウンター表示部, 背景の望遠鏡は手前から8cm案内鏡, 60cm主鏡, 15cm屈折望遠鏡.



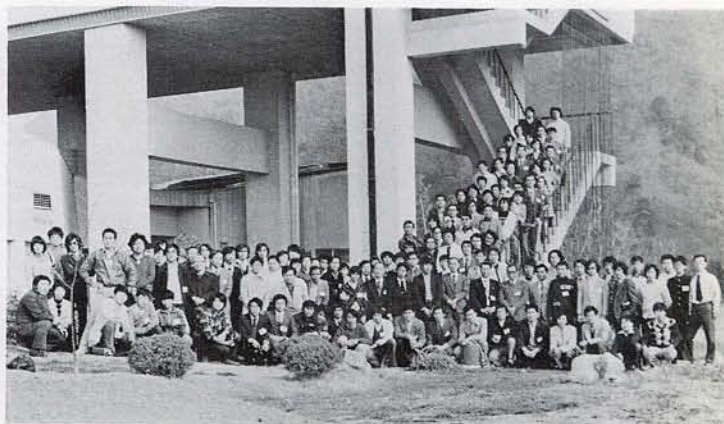
◀ 受光器: 絞りは0.2, 0.4, 0.7, 1.0, 1.5, 2.0mmの6段階, 三色フィルターもついている, 光電管はEMI 9502 B.

## 第7回彗星会議スナップ

(本文 199 頁記事参照)



▲ 分科会場にて.



▲ 記念撮影.